

前期始業式 副校長講話 「今年一年をどう過ごすか」 ～ 私の足で一歩歩み出す一年に ～

今日から、平成 30 年度が始まります。

登校日数 207 日をどう過ごすか。

それも、ただ過ごすのではつまらない。

せっかくだから、夢中になってやりたい。

うまくなったり、できるようになったりしながら、

今日より明日、ひとつずつ乗り越えて、

去年とちがう、ひとつ大きくなれる年にしたい。

人のせいにしない自分になりたい。

自分の足でちゃんと歩いて、3 月には、「なんか、大変なこともあったけど、去年より自分がいろいろ考えられるようになった気がする」と話せる自分になりたい。

そんなことを思うのです。

では、一体どうしたらいいのでしょうか・・・

ひとつ言えることは

わからないことをわからないと言える学級になる ことです。

しかし、簡単なようでものすごく難しいことです。

どうして、そんなに難しいか。

それは、わからないと言うことは恥ずかしいことだと思ってしまうからです。

その気持ちを一端横において、みんなに伝えられるかどうか。



しかも、ただ「わからない」ではなくて、
「どこが・どんなふうにわからないか」を
自分と相談できるかどうか。

そうはいつでも、最初からはできるように
はなりません。

挑戦して、失敗して、また挑戦して・・・
の繰り返しの中で身についていくのだと思
います。



* * * * *

以前、私が担任した2年生のクラスのことでした。

このクラスでは、なかなか、わからないと言えず、ずっとわからないことを隠
していました。

あるときは、わからないのに、わかったようなふりをしていることもありまし
た。

そんなある日のことです。

「ザリガニはタンポポを食べるらしい」
という話がでました。すると、



「いや、ザリガニはタンポポを食べるのではなくて、タンポポの茎を折ると出
てくる白い液体を食べるのではないか？」

という話が出てきました。

その時、

「液体ってなあに」

と尋ねていく映像です。



「液体ってなあに」



ふたりの子が「わからない」と言えた。
でも、ここには、おそらく大人でも見えにくい「あのね」と話せる気持ちのいい世界が学級の中に流れていたのです。
ここなんです。ここが、さらに難しい・・・

簡単にまねのできない世界をひとつのぞいてみましょう。

* * * * *

そうじの時間のことでした。

「私の知らないところで…」



机を運んでいたら、机の脚についたゴミをそばに来て、そっととってくれた友だち。
「私は、私の知らないところで、私を温かく観てくれている友だちがいることが嬉しかった。そんなクラスに、私は今、居ることができる」と。

ほんものと にせものは みえないところで何をしたかで きまる

わたしが尊敬する先生に東井義雄（とういよしお）という先生がいます。その先生がこんな言葉を残してくれました。

* * * * *

知っている人も多いと思いますが、4月4日、新3年2組では、学級で飼っている羊のめぐみちゃんが出産しました。
ふたつのかわいい赤ちゃんの誕生でした。
それは昨日の午後5時半過ぎでした。

担任の吉澤先生がめぐみちゃんの様子を見に小屋に行ったところ、出産前に起きる破水が起きようとしていました。破水とは、出産の時、羊膜（ようまく。子宮内で胎児を包んでいる膜）が破れて羊水が出ること。これから赤ちゃんが生まれるよ、という合図です。



めぐみちゃんのおしりを観ていると風船のようなものがみえると思います。あれが羊水の入っている袋です。めぐみちゃんは、苦しいけれど、一生懸命前足で赤ちゃんが生まれる場所をつくっていました。

吉澤先生は獣医さんに連絡したり、子どもたちに連絡したり、めぐみちゃん頑張れ！と一生懸命でした。

その時です。

まだ今年来たばかりの先生も、学校にいる全ての先生たちが、こうして、頼まれたわけでもなく自分の学級のことのように助けてくれました。



本当のやさしさは、人の悲しみや苦しみ、困ったことを感じられる心をもった人にしか与えられません。

この学校には、その優しさをもった先生たちがいます。だから、難しいことを乗り越え、きっと、必ず優しい学級は作れると思います。



今年がスタートします。

(文責:教頭)